

奈良新『都』
づくり戦略
2020



©NARA pref.

奈良県知事 荒井 正吾

はじめに

「奈良は目に見えて良くなってきた」とと言われることが多くなってきました。これまでの県民や県議会の皆様のご理解ご協力と県職員の奮励努力のおかげだと思っています。

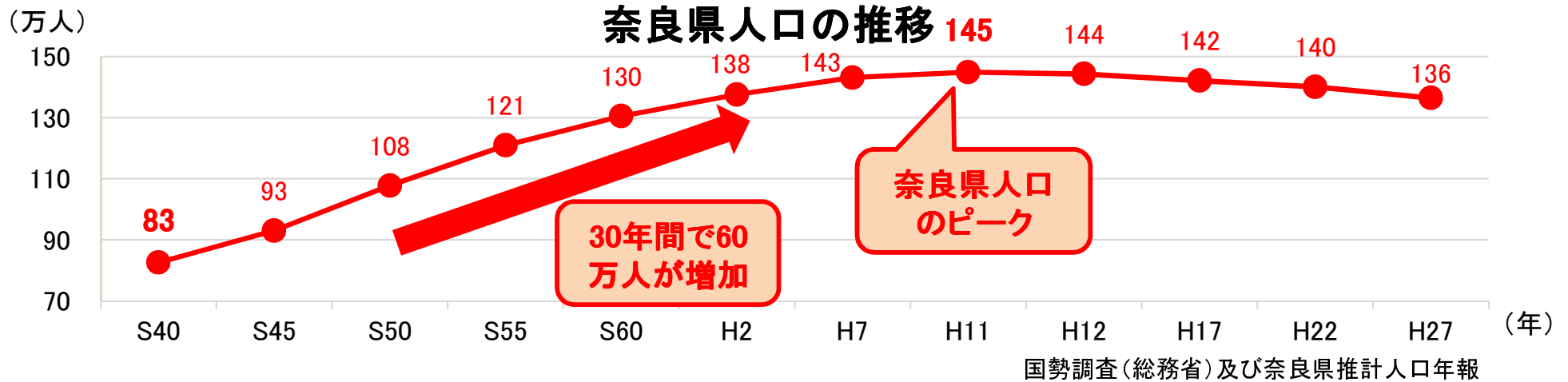
昨年6月に奈良新『都』づくり戦略案を発表し、戦略案を土台に奈良をさらに良くする戦略を実行してまいりました。一方、戦略案の全項目について職員と議論を重ね、「もっと良くなる奈良」を目指した「奈良県政の発展の目標と道筋」について、「奈良新『都』づくり戦略2020」をとりまとめました。

この資料は、皆様方からさらなる智恵のお布施を賜るための**托鉢の鉢**です。

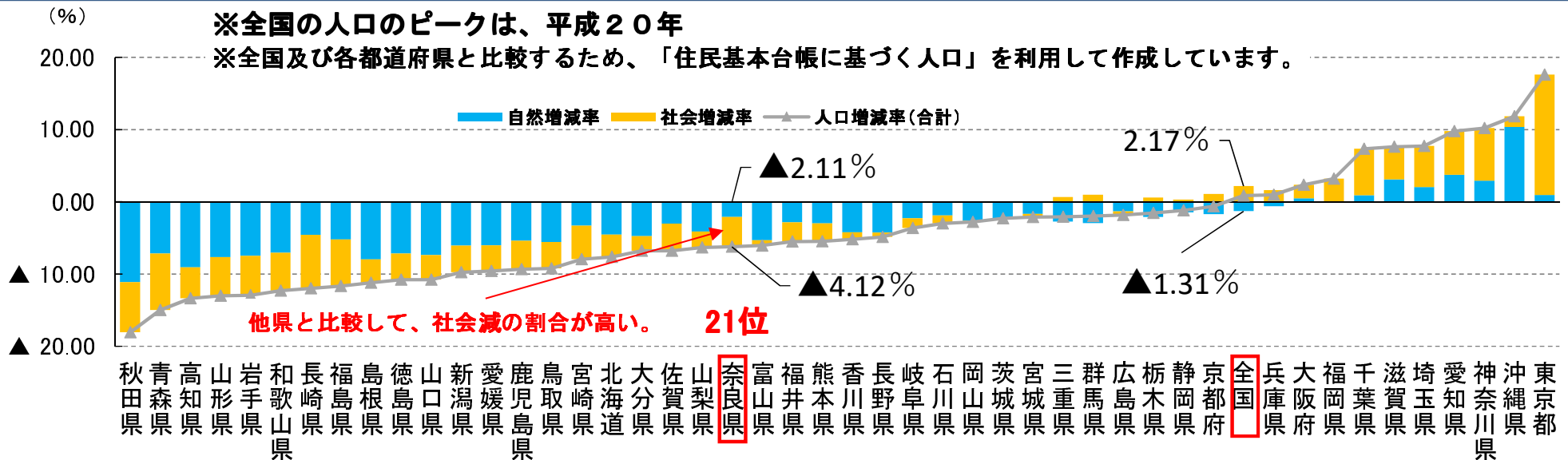
県民の将来に御利益のある**「智恵のお布施」**を期待しています。

これまでの奈良県の立ち位置の確認

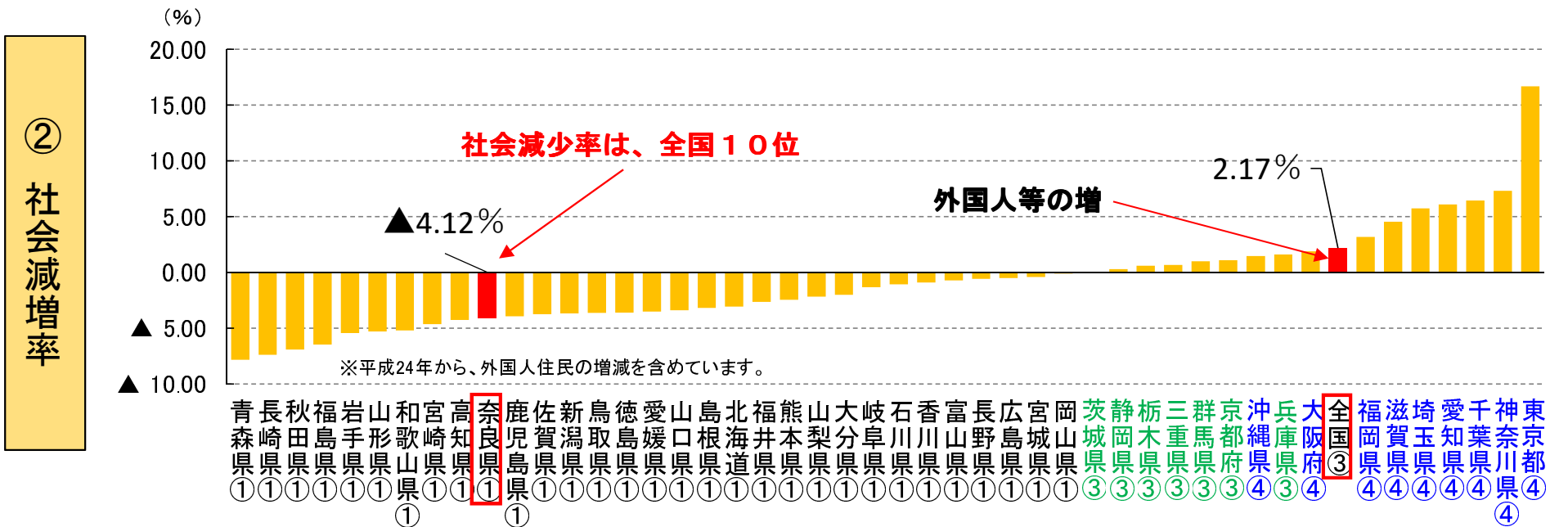
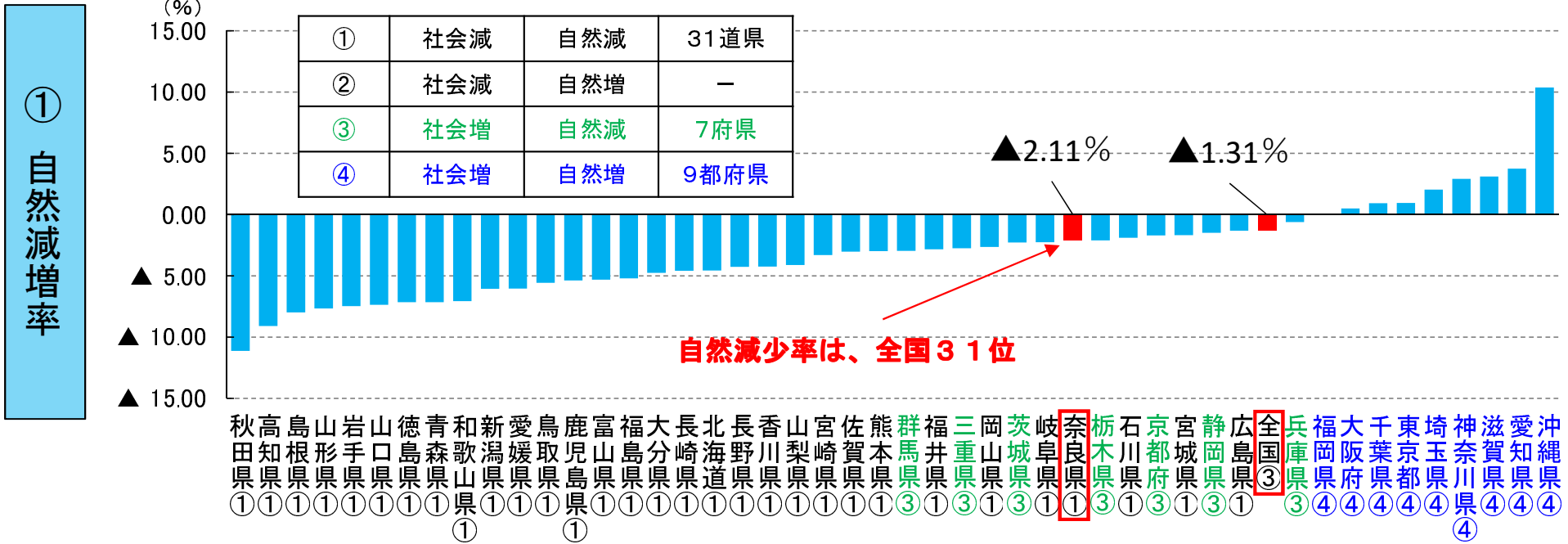
1. 50年前から20年前までの30年間、県北部・西部地域を中心とする急激な人口増加(社会増中心)がありました。今人口減少に襲われています。



2. 過去20年間の奈良県の人口の減少率は減少の大きい方から21位

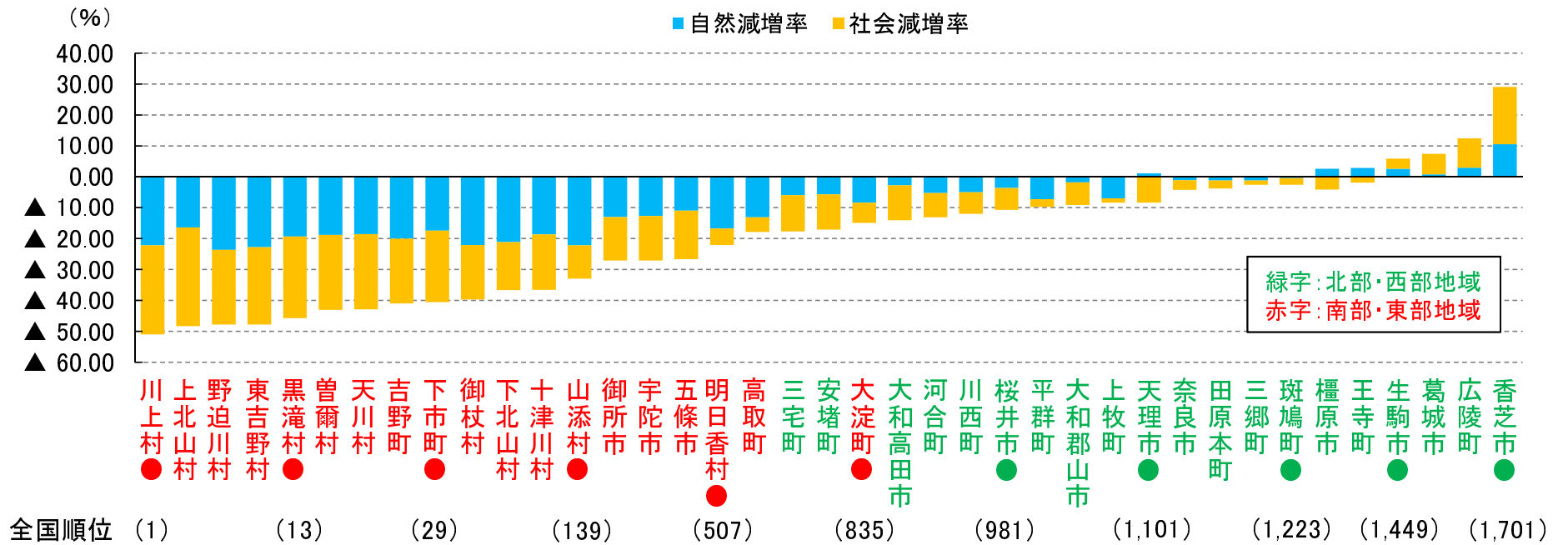


3. 過去20年間の奈良県の人口減少は、社会減が自然減より大きい。 (社会減は若者が中心で、次の自然減を招く可能性がある。)

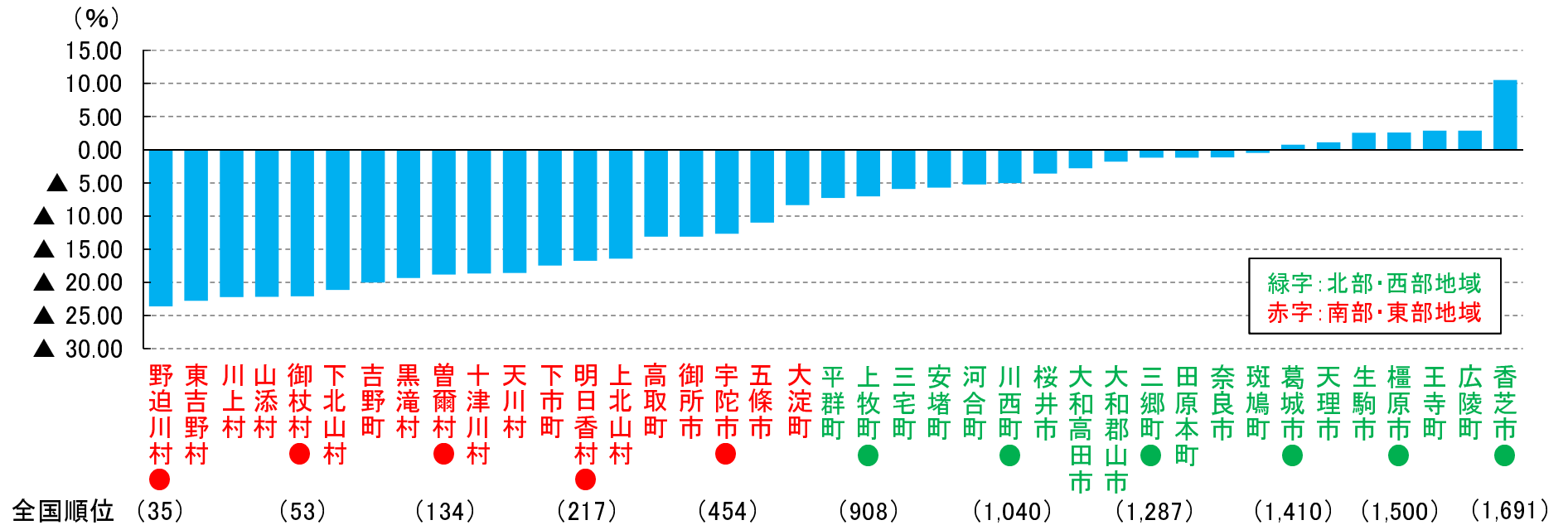


4. 過去20年間の県内市町村の人口減少率と全国市町村(1,741)中の順位

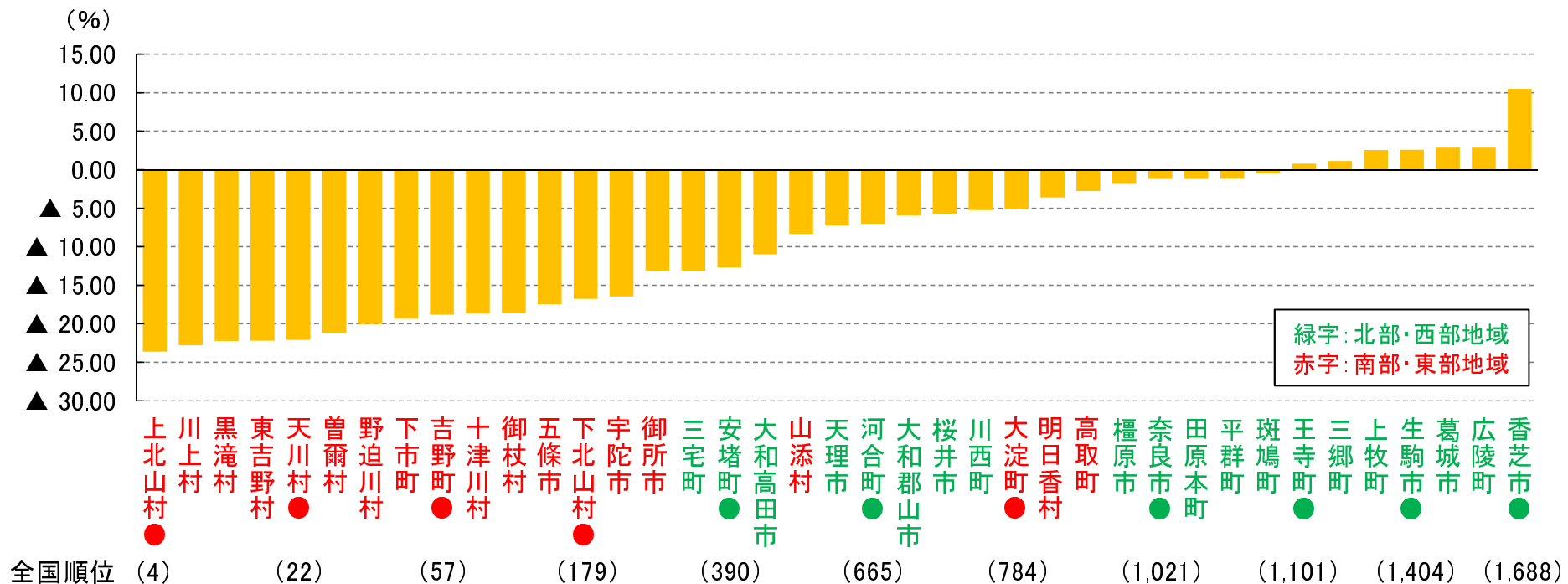
① 人口減増率



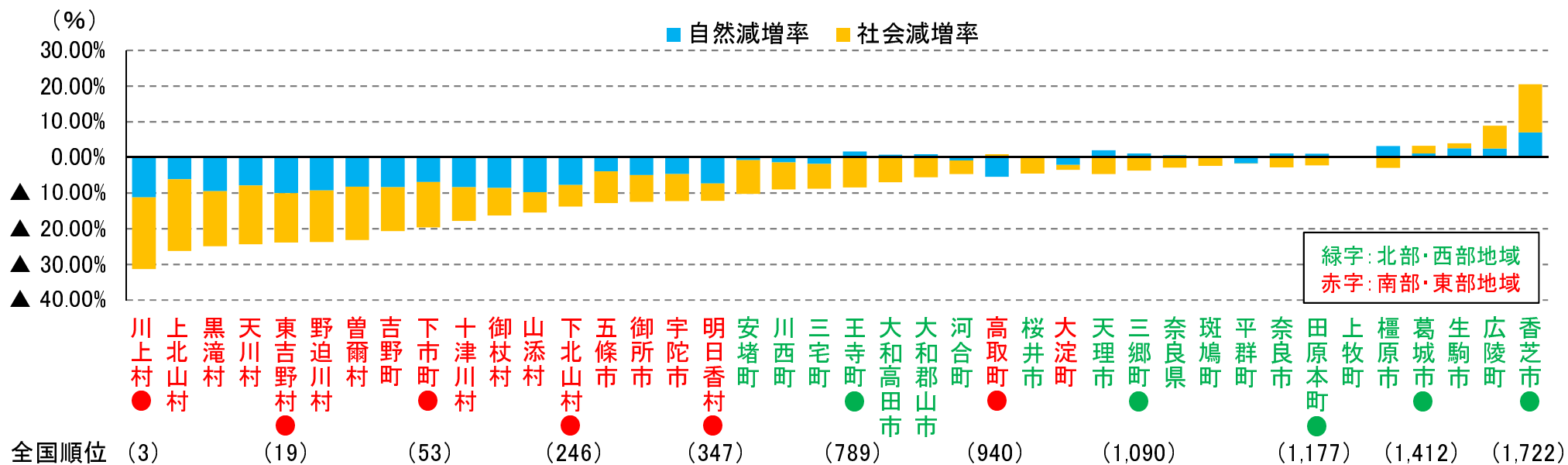
② 自然減増率



③ 社会減増率

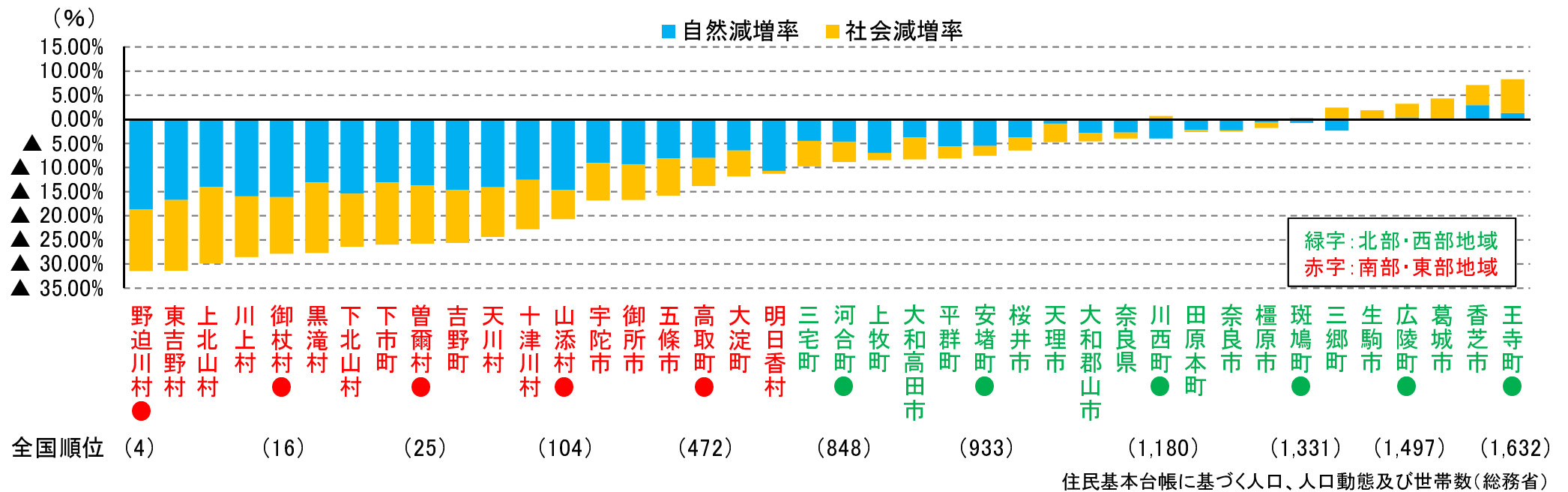


平成11年～平成20年 10年間の社会減増・自然減増

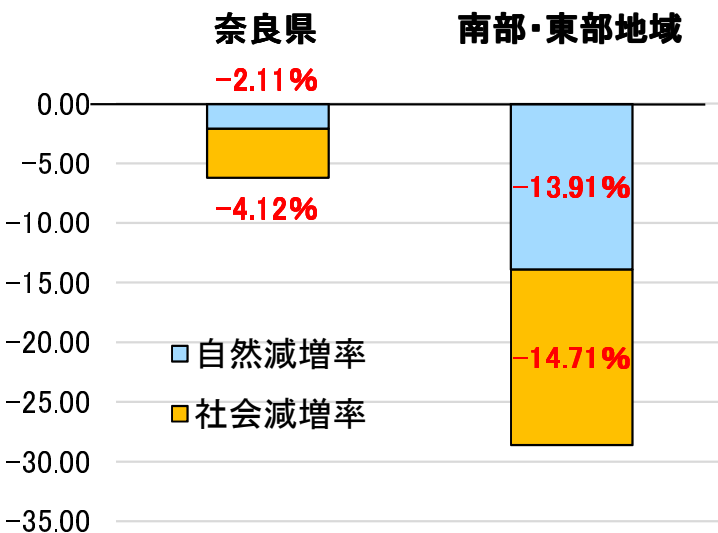


住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)

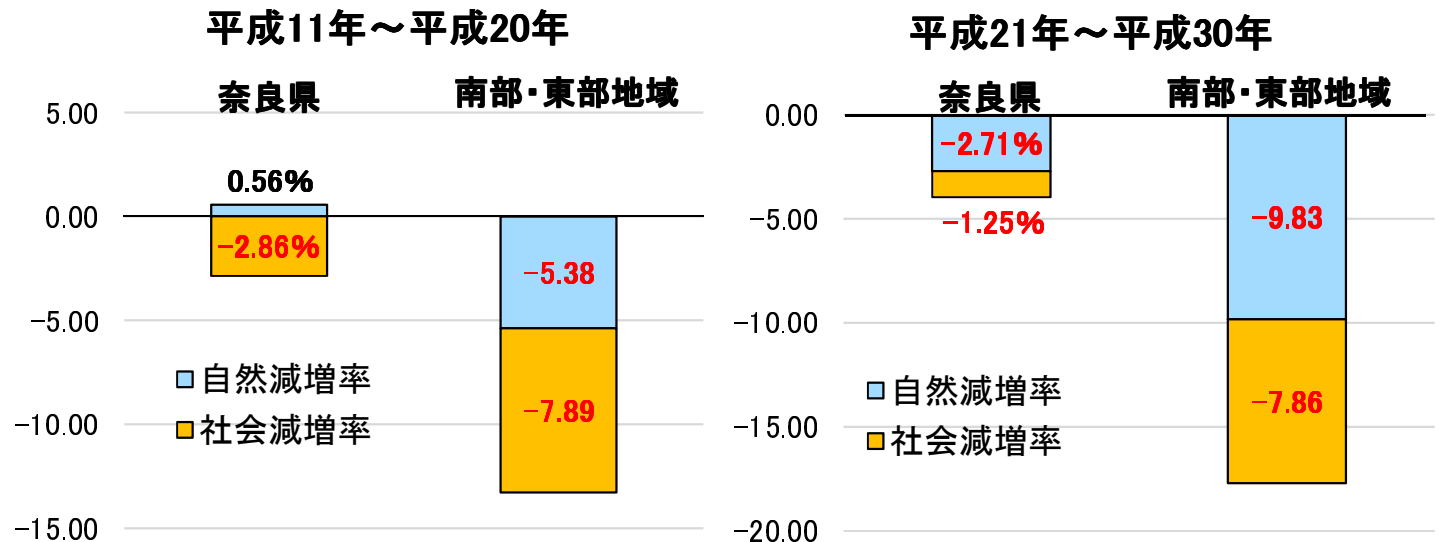
平成21年～平成30年 10年間の社会減増・自然減増



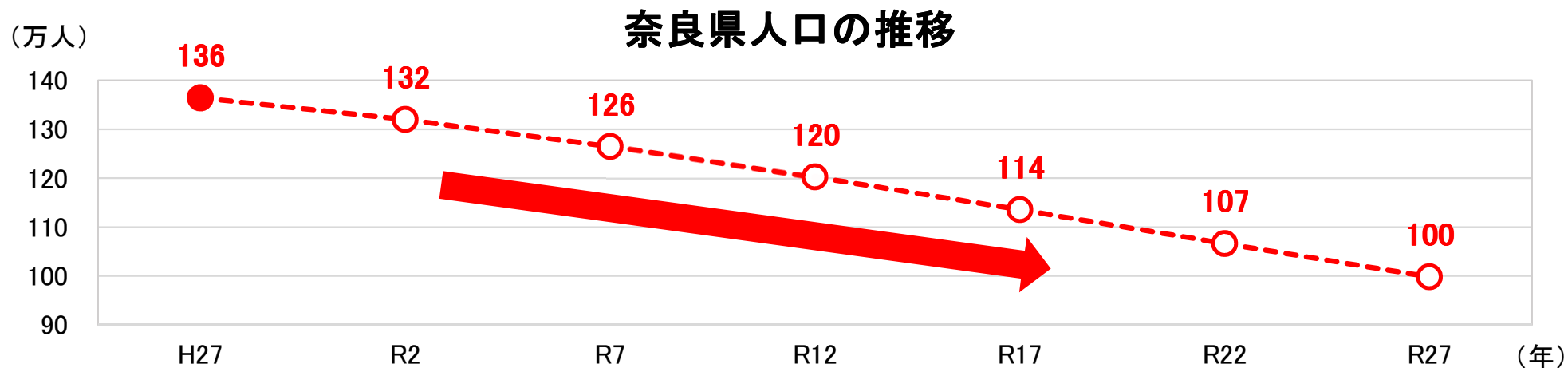
過去20年間の人口の減増率 南部・東部地域と奈良県



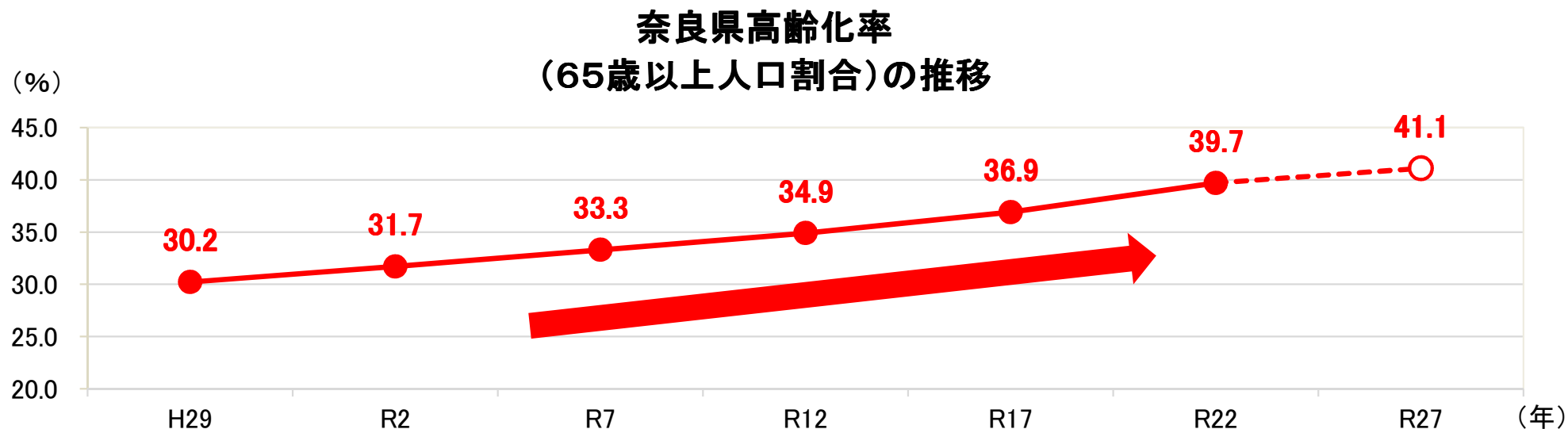
過去10年ごとの人口減増の比較



5. これから、急激な人口減少・急速な高齢化が奈良県を襲います。 (人口の社会減少は自然減少に先行する。)



H27: 国勢調査、H28～R27: 国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」及び奈良県推計人口年報



H29: 住民基本台帳に基づく人口(総務省)及び県年齢別推計人口、 R2～R27: 「日本の将来推計人口」国立社会保障・人口問題研究所

6. 今、奈良県は成熟したベッドタウンと同様の諸課題に直面。 次の世代への対応が必要。

- (1) **高齢者の増加** → **「奈良で元気に生きる」施策の充実が必要**
- (2) **子ども達がいなくなった夫婦のみ・独居家庭の増加**
近所に空き家が目立つ住宅地 → **高齢者に生きがいのある地域づくりが必要**
新しい人口構成に相応しいまちのリニューアルが必要
- (3) **奈良で育った子ども達(ベッドタウンの次世代)の働く場の確保** → **新しい奈良の住人(ベッドタウンの新世代)に対する子育て支援の充実**

7. 奈良県政のこれからの主たるテーマは

1. 県内で育った人に県内で働く場を確保
～県内で育ち働く、人の循環を～

2. 生活に、観光に自然歴史文化資源を活用
～住んで好し、訪れて好しの奈良県に～

3. 新旧世代に住みよく、まちをリニューアル
～一粒で2度おいしい奈良のまちに～

4. 遅れている交通基盤を充実
～道路を良くし、奈良に賑わいを～

5. 健康で愉しく一生すごせる奈良県に
～健康寿命日本一に～

6. 生涯よく学び続けられる地域に
～よく学んで奈良を楽しむ～

7. 農村・森林を大切に
～奈良の自然を敬う～

8. 南部・東部を元気に
～南部・東部振興は県政の本務～

9. 行政サービスを効率的に進める
～奈良モデルで行政資源を総動員～

「奈良県の力底上げ」を実行

奈良県の力底上げプロジェクト

人口動態や経済社会情勢が大きく変化する中、県民満足度調査や都道府県別ランキング、エビデンスから、県の強み・弱みを分析し、目指すゴールを明らかにした上で、体系化した戦略を策定し、県内の行政資源（人材、財源、ファシリティ）を総動員して「**奈良県の力底上げ**」を図る。

奈良県内の行政資源

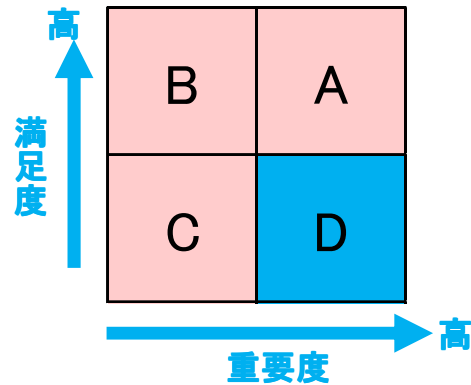
人材	職員	県 15,098人	市町村 12,626人	合計 27,724人（令和元年度）
財源	決算	県 4,936億円	市町村 5,358億円	合計 10,294億円（平成30年度）
ファシリティ	施設	県 722カ所	市町村 5,029カ所	合計 5,751カ所（令和元年度）

「奈良県の力底上げ」の実行には

1. 目指すゴールの選択(ターゲティング)

(1) 県民満足度調査から「重要だが不満の項目」を優先して選択

- ・ 県民アンケートにおける重要度が高く、満足度の低いD象限の項目把握



- ・ 重要度が高く満足度の低い項目(満足度の低い順)

①市町村行政に対する住民意向の反映

②多様な就業環境の整備

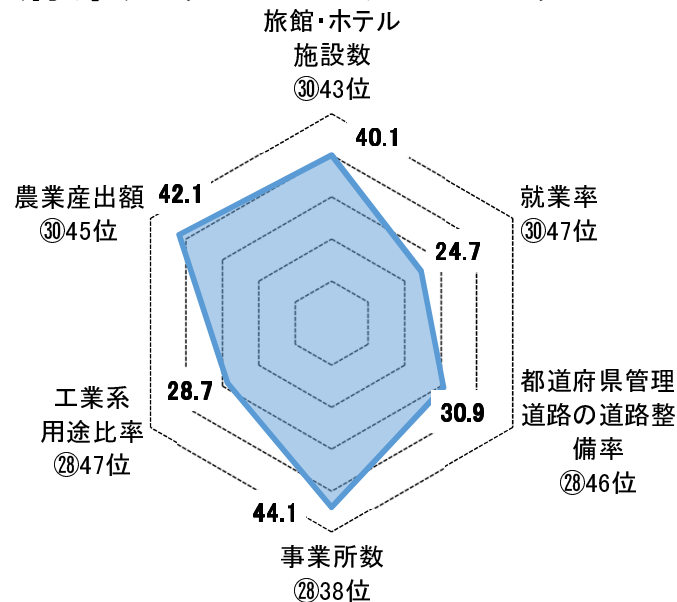
③高齢者・障害者が安心できるまちづくり

④公共交通の利便性 ⑤失業者の不安がない社会づくり

⑥自主防災対策の充実 ⑦安心できる周産期医療体制

⑧防災対策の充実 ⑨障害者支援サービスの充実

(2) 都道府県別ランキングから「ランキング下位」を優先選択



①宿泊施設数 **43位** → ホテル誘致、食の振興
観光振興

②就業率 **最下位** → 働き方改革、子育て支援

③道路整備率 **46位** → 交通基盤の充実

④事業所数 **38位** → 働く場の確保

⑤工業系用途比率 **最下位** → 工場誘致、工業ゾーンの創出

⑥農業産出額 **45位** → 農業振興

(3)エビデンスから選択

奈良県の強み・弱みを分析、強みを伸ばし、弱みを補強する

奈良県の強み

豊かな自然環境



観光交流の促進

3つの世界遺産をはじめとして文化遺産が豊富



歴史文化資源活用分野と芸術文化振興分野に力点を置いた施策の推進

大学進学率が高く、専門的な知識を持った人材が多い



県内での新たなしごとの創出(起業支援)

奈良県の弱み

女性の就業率が全国最下位



女性の活躍推進のための支援・啓発

宿泊施設の施設・客室数ともに少ない



宿泊産業の育成、支援

県有施設のほぼ半数が築後30年以上経過し、老朽化が進行



ファシリティマネジメント(FM)の推進

2. 戦略を策定(プログラミング)

- ①ターゲットのデータ収集・分析
- ②現場と接触、現場感覚強化
- ③市町村のイニシアティブを尊重
- ④困難を糧に失敗から学習
- ⑤関係者と目標共有、行動共同のプロセス
- ⑥仕事から学ぶ
- ⑦まず勉強会から

3. 戦略の実行(インプリメンテーション)

- ①選択と集中
- ②国の力を借りる
- ③関係者の力を結集する
- ④プロセスをモニターする
- ⑤常に改善を加える

奈良県庁の流儀に磨きをかけ、県内行政資源総動員 (奈良県の力を底上げし、奈良モデルを実行)

奈良県庁の流儀

- ①統計重視(データを収集・分析してエビデンスをつくる)
- ②現場重視(現場が良くなしないと仕事をしたことにはならない)
- ③頑張る市町村を助ける(賢く考えて良く走るミッドフィルダーになる)
- ④失敗することを恐れない精神(リスクを先読みして立ち止まることはしない)
- ⑤プロセス重視(目標共通化、行動共同化、モニタリングで結果検証)
- ⑥人材を育てる(生涯世の役に立つ人を育てる)
- ⑦高度の知賢を集める(まず学ぶことから)

奈良県庁の人材育成の考え方(パーソネルマネジメント)

Mission

(使命)

職員にワクワクする使命を与える
のは上司の使命

Motivation

(意欲)

ミッション実現能力の向上には長期的視野に立った自己研鑽が必要

Leadership

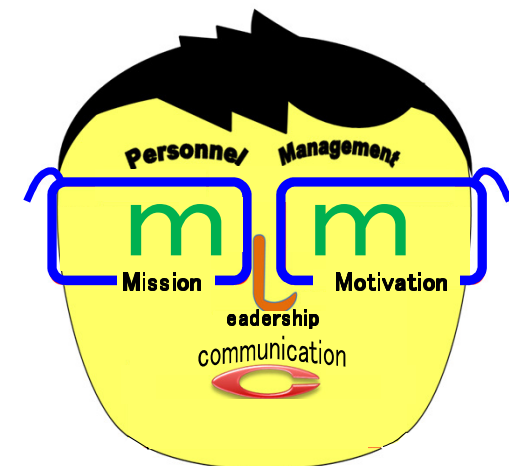
(指導力)

やる気で人を引っ張る、新しいアイデアを生み出す

Communication

(意思疎通)

職場内外での協調性・調整力を発揮するにはコミュニケーション能力が必要不可欠



地域の行政資源(人材)を総動員する(奈良モデル)

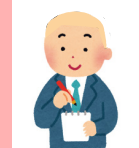
県の役割=賢く考えてよく走るMF

- ① 国にお願いする(陳情)
- ② 国の力を借りる(予算、助言)
- ③ 庁内の横パスを重視(庁内連携、プロジェクトチームづくり)
- ④ **市町村へのキラーパス**で市町村が得点(奈良モデルの財政支援、技術支援)
- ⑤ 市町村間の広域連携も支援
- ⑥ ピッチ外で考える人も必要



データを
収集分析

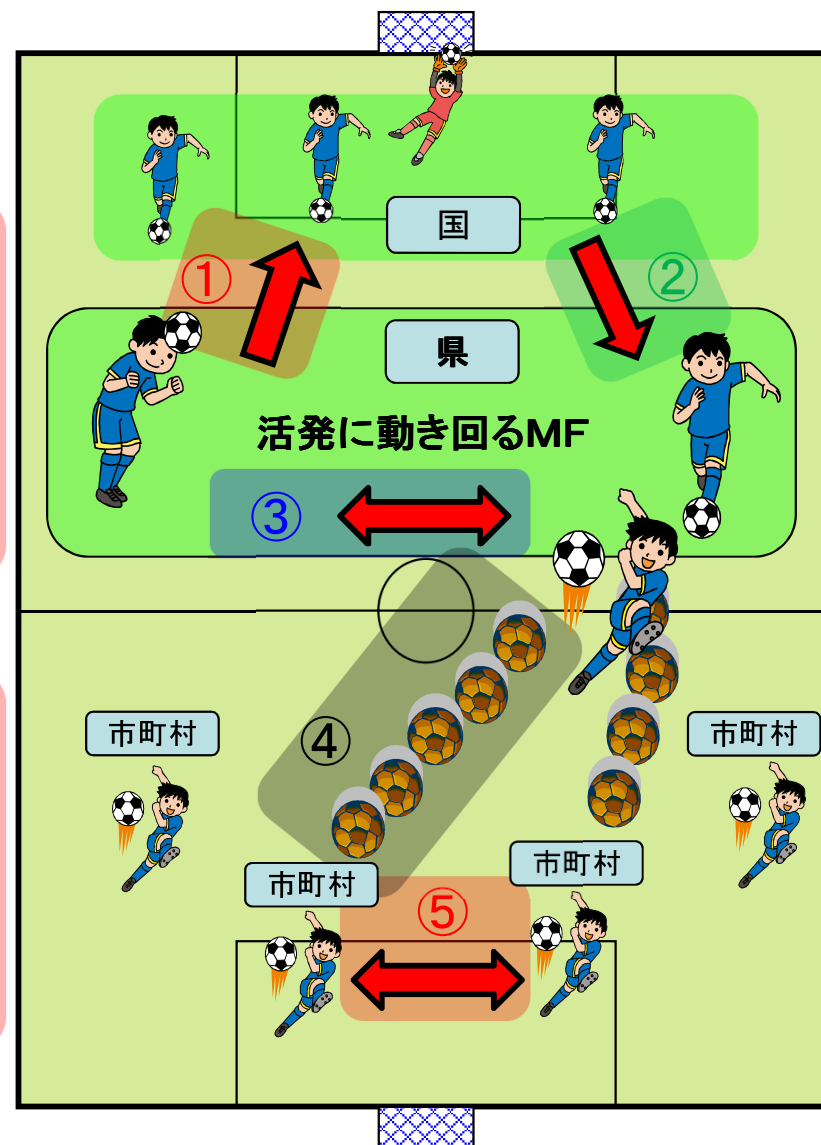
⑥



よく考える
スコアラー

⑥

県の役割のイメージ



○戦略の体系

9つの都『九条大路戦略』
28の坊『28坊戦略』
151の街『151街戦略』

＝新平城京戦略

I 栄える「都」をつくる

～奈良県経済の好循環を促し、働きやすく、就業しやすい奈良県にする～

1 地域経済活性化 (1)～(8)

2 働き方改革の推進と就業支援 (9)～(12)

II 賑わう「都」をつくる

～奈良が有する自然・歴史・文化資源を活用し、観光産業を振興する～

3 滞在型観光の定着 (13)～(19)

4 魅力ある観光地づくり (20)～(30)

5 観光奈良の魅力向上・発信 (31)～(35)

III 愉しむ「都」をつくる

～県民が安心して快適に暮らし続けられる奈良をつくる～

6 「安全安心な地域」づくり (36)～(41)

7 「きれいな奈良県」づくり (42)～(47)

8 暮らしやすいまちづくり (48)～(52)

9 地域で子どもを健やかに育てる (53)～(57)

10 女性活躍の推進 (58)～(60)

11 エネルギー政策(61)～(62)

IV 便利な「都」をつくる

～県土マネジメントを推進し、効率的で便利な交通基盤をつくる～

12 道路整備 (63)～(78)

13 鉄道整備 (79)～(83)

14 バス輸送環境整備 (84)～(85)

V 健やかな「都」をつくる

～健康寿命日本一を目標に、高齢者、障害者を含む、誰もが健やかに暮らせる地域をつくる～

15 健康寿命日本一を目指した健康づくり (86)～(88)

16 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実(89)～(95)

17 福祉の充実 (96)～(99)

18 だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり (100)～(102)

VI 智恵の「都」をつくる

～すべての県民が、生涯良く学び続けられ、奈良の歴史文化に親しめる地域をつくる～

19 教育の振興 (103)～(111)

20 文化財の保存・活用、文化財の防災、文化の振興 (112)～(118)

21 海外との交流展開 (119)～(121)

VII 豊かな「都」をつくる

～県内の農・畜産・水産業・林業の振興、農村活性化、森林を護る施策を進める～

22 農業・農地・農村・食と農の振興 (122)～(127)

23 畜産・水産業振興 (128)～(130)

24 森林環境管理・林業振興 (131)～(135)

VIII 誇らしい「都」をつくる

～交流、定住の促進により、南部地域・東部地域を、頻繁に訪れてもらえる、住み続けられる地域にする～

25 南部・東部の振興 (136)

IX 爽やかな「都」をつくる

～奈良が持つ行政資源を総動員し、効率的・効果的な行財政マネジメントを行い、行き届いた行政サービスを届ける～

26 奈良モデルの実行 (137)～(145)

27 行政マネジメント (146)～(148)

28 財政マネジメント (149)～(151)